

平成 30 年度滋賀県がん診療連携協議会・第 3 回診療支援部会 議事概要

日 時 平成 31 年 2 月 19 日 (火) 18 時 00 分～18 時 40 分

場 所 滋賀医科大学医学部附属病院 4 階 第 4 会議室

出席者 谷真至 (滋賀医科大学医学部附属病院)

南部卓三 (公立甲賀病院)

來住優輝 (彦根市立病院)

林嘉彦 (市立長浜病院)

小泉聡 (高島市民病院)

青木悦雄 (市立大津市民病院)

山本寛 (代理：山本雄介) (草津総合病院)

重松忠 (代理：日置) (済生会滋賀県病院)

駒井康伸 (長浜赤十字病院)

重永博 (滋賀県医師会)

松井泰成 (滋賀県歯科医師会)

小杉奈緒 (滋賀県薬剤師会)

三上房枝 (滋賀県看護協会)

吉村雅寛 (滋賀県放射線技師会)

寺田智祐 (代理：野田哲史) (滋賀県病院薬剤師会)

山本伸子 (滋賀県歯科衛生士会)

野坂明子 (滋賀県健康医療福祉部)

川邊義巳 (滋賀県立総合病院)

欠席者 土井隆一郎 (大津赤十字病院)

川上賢三 (滋賀県立総合病院)

石川博己 (近江八幡市立総合医療センター)

目片英治 (東近江総合医療センター)

山内智香子 (滋賀県放射線治療連絡協議会)

醍醐弥太郎 (滋賀医科大学医学部附属病院)

オブザーバー 菊井津多子、奥井さよ子、柳田英代、岩本加奈 (滋賀県がん患者団体連絡協議会)

(敬称略)

1. 報告

議事に先立ち、部会長からがん患者団体連絡協議会からオブザーバーとして参加していただいている 4 名の方々の紹介があった。

また、前回の部会 (平成 30 年 10 月 26 日開催) の議事概要について、ご意見等があれば事務局まで連絡いただきたいとの依頼があった。

2. 議題

(1) 平成 30 年度の取組について

- 1) 「がん診療連携拠点病院等のがん診療に関する機能分担の評価の検討」、「がん医療の質の向上に向けたアウトカム評価の検討」について（資料 1-1、2）

部会長より、各病院の広報誌やホームページに掲載している「がん診療に関するトピックス」を、新着情報順、医療圏別・病院別に取りまとめて県のホームページに掲載しており、今回の資料の内容を確認していただき、お気づきの点があれば事務局まで連絡いただきたいとの依頼があった。

2) 高度ながん医療について（資料 2-1～3）

病院別、疾病別の治療法一覧について、追加・修正があったところを赤字で示している。今回、草津総合病院より新規の医療技術の提出があり掲載している。各病院で確認いただき、追加・修正等あれば連絡いただくよう依頼があった。

3) 各団体の取組について（資料 3）

各団体から 30 年度の取組結果と 31 年度の取組予定について説明があった。

（滋賀県医師会）

他団体が行うがん診療についての事業をバックアップした。また、「がん関連」の研修会を県の医師会報にスポット掲載し会員に周知した。

また、「5 大がん地域連携パス」を有効利用し、病診連携をスムーズに行えるよう会員に周知した。「5 大がん地域連携パス」は、積極的に利用する医師がいる場合は多く利用される傾向にある。療養所は、治療をしっかりと理解し患者に説明できるようにしておく必要がある。

部会長より、パスの利用について使いにくい点があれば、指摘いただくよう依頼があった。

（滋賀県歯科医師会）

「口腔がんチェック事業」を平成 30 年 3 月から実施し、平成 31 年 1 月現在 139 の歯科医院を登録した。これに関連した研修会を 2 月 17 日に実施し、参加は 90 名であった。口腔がんチェックは、スクリーニングで気になる患者に医療機関の受診を勧めている。また、がん患者の口腔ケアに係る医科歯科連携の推進として、平成 31 年 1 月現在 66 の医療機関を登録した。実績については、平成 31 年度に調査予定である。

平成 31 年度は、口腔がんチェックの実施と口腔ケアに係る医科歯科連携の推進を引き続き進めていく。

（滋賀県薬剤師会）

滋賀県薬剤師会認定在宅ホスピス薬剤師のフォローアップ研修会を 7 月と 11 月の 2 回開催した。また、医療用品共有システムおよび在宅医療推進のための薬局機能情報サイトの継続運用を行い、医薬品共有システムのリニューアルを行った。

平成 31 年度も、2 回の研修会の実施と、薬局機能情報サイトの継続運用を行い、滋賀医科大学、県立総合病院で開催されるがん関連研修会に積極的に参加する。

（滋賀県看護協会）

がん患者のアピアランスケアについて、がん認定看護師による研修会を行い、定員 80 名に対し 52 名の参加であった。来年度も、引き続きがん患者のアピアランスケアについて行う予定である。

(滋賀県放射線技師会)

7つの専門研究会において、「がん診療」に役立つ研究会を14回開催した。また、「乳がん」をテーマとした研修会を臨床検査技師会と合同で開催し、179名と多くの参加があった。

平成31年度は、7つの専門研究会で研究会を開催し、研修会の内容等をホームページに掲載するなど広報をしっかりと行いたい。また、第3回研修会では「肺がん」をテーマに開催する予定である。

(滋賀県病院薬剤師会)

病院薬剤師を対象とした、滋賀県がん薬物療法カンファレンスを3回行った。また、薬局薬剤師を対象とした研修会を2回開催した。がん患者の高齢化に伴い、ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナーを3回実施し、50名から100名の参加があった。

平成31年度も引き続き、病院薬剤師を対象としたカンファレンス、薬局薬剤師を対象とした薬剤師養成コース、ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナーを開催する予定である。

(滋賀県歯科衛生士会)

病院に勤務する歯科衛生士を対象とした研修会で、臨床心理士を招いての研修を行い、3月には「骨吸収抑制薬関連顎骨壊死について」の勉強会を企画している。

周術期等口腔機能管理について、歯科衛生士の大きな役割と考えており、がん患者の口腔ケアにかかる医科歯科連携の推進として登録されている66の開業医に勤務する歯科衛生士のスキルアップを図るとともに、がんをテーマにした研修会を予定している。

4) HPの拡充(資料4)

がん情報しがのアクセス状況について、セミナー(専門職向け)を除き、すべての項目で前年度比が伸びている。また、がん情報しがのバナーの活用をお願いしたい。

5) がんゲノムの情報の確認

保険収載されるまでは内容には触れず、各病院のカウンセラーの人数の確認をしていきたいので、また、情報提供をお願いしたい。

6) 若年性妊孕性温存の取組

平成30年度からの「滋賀県がん対策推進計画(第3期)」において、妊孕性温存治療について医療従事者に対し人材育成に努めることとしている。

県では、がん診療連携拠点病院、がん診療連携支援病院、地域がん診療病院の計13か所において「医療者を対象としたがん患者の妊孕性温存についての啓発と滋賀県のシステム紹介」の研修会を開催できたことは大きな収穫である。今後も続ける必要がある。

(2) 部会の取り組み評価(最終評価)について

1) アクションプランについて(資料5)

部会の取り組みの最終評価について検討した結果、全体的にA評価とすることで了承された。

2) PDCAサイクルについて(資料6)

サイトの充実を指標としており、各病院のがん診療の情報を「がん診療に関するトピックス」、「治

療法一覧」として「がん情報しが」に掲載し、内容の更新を図っていくことで了承された。

(3) その他

1) 県からの情報提供

妊孕性温存の助成として、卵巣組織凍結と受精卵凍結について、高額な費用がかかる方については、助成金額の上限を10万円から20万円に引き上げる予算要求を行った。

ゲノム関連では、現在中核拠点病院が11ヶ所、連携病院が135ヶ所あり、その中間となる遺伝子パネル検査を行うがんゲノム医療拠点病院を40ヶ所作るという厚労省の意向があるが、現在指針は示されておらず来年度中に作成される予定となっている。

また、がん患者の調査の予算計上をしている。内容は満足度等主観的な内容である。患者団体の方への補助という形で考えている。

2) 患者会からのご意見

大津赤十字病院で月1回行っているAYA世代の患者サロンにおいて、参加された30代の方が妊孕性温存をされたというお話をされた。これは、病院での研修による大きな成果である。

【配布資料】

- (資料1-1) がん診療に関するトピックス (新着情報順)
- (資料1-2) がん診療に関するトピックス (医療圏別、病院別)
- (資料2-1) 治療法一覧 (病院別)
- (資料2-2) 治療法一覧 (疾病別)
- (資料2-3) がん情報しがの掲載場所
- (資料3) 各団体の取組
- (資料4) 「がん情報しが」アクセス状況
- (資料5) 滋賀県がん診療連携協議会アクションプランシート (診療支援部会)
- (資料6) 平成30年度滋賀県がん診療連携協議会PDCAチェックリスト (診療支援部会)

【参考資料】

- (参考1) 診療支援部会 部会員名簿
- (参考2) 平成30年度滋賀県がん診療連携協議会・第2回診療支援部会議事概要 (10月26日開催分)